

取材日：令和3年8月25日

熱中症対策 事例集

業種：建設業（解体工事業・土木工事業）

本社所在地：埼玉県さいたま市中央区

取材地：埼玉県さいたま市北区

従業員数：10～29名

概要：土木工事、解体工事、造成工事等

特に配慮している事項

土木工事・解体工事（一般住宅・ビルなどの各種構造物の解体）・造成工事を中心に事業を行っています。資格を有し高い技術を持つ社員を育成するとともに、それぞれの健康管理にも積極的に取り組み、作業場所に適した熱中症対策を実施し、確実な効果を挙げています。

基本的な取り組み事項

- 作業内容に適した熱中症対策の積み重ねで確実な効果を発揮。
 - 無防備な屋外作業が行われないよう、日陰を作るための遮光シート、ミスト扇風機を設置している。
 - 解体工事は屋根のない屋外作業がほとんどであるため、解体作業用の重機は運転席にクーラーがついているものを採用している。
 - 屋内の休憩場所では、クーラーを稼働させ、良好な環境を整備している。冷凍冷蔵庫を設置し、飲料等の冷却を行っている。
 - 屋外に飲料自動販売機を設置している。



クーラーがついている重機を採用

1. 熱中症予防対策

(1) 作業環境管理

①WBGT 値の低減等

- ミスト扇風機を導入している。

②休憩場所の整備等

- 休憩場所に冷蔵庫、クーラーを設置している。
- 屋内の休憩場所には空調を整備し、屋外のベンチには遮光シートをかけている。

- 作業現場には、熱中症の注意喚起の垂れ幕を設置している。



「熱中症を防ごう！」注意喚起の垂れ幕

(5) 救急処置

- 特に顔色が悪い、発熱がある、などの場合は直ちにヒアリングを実施する。
- 具合が悪そうならすぐに救急車を呼ぶ。
- 熱中症対策応急セットを常備している。

(6) 管理体制の整備

- 小さな現場なので現場で働く者同士の挨拶、交流を心掛けている。